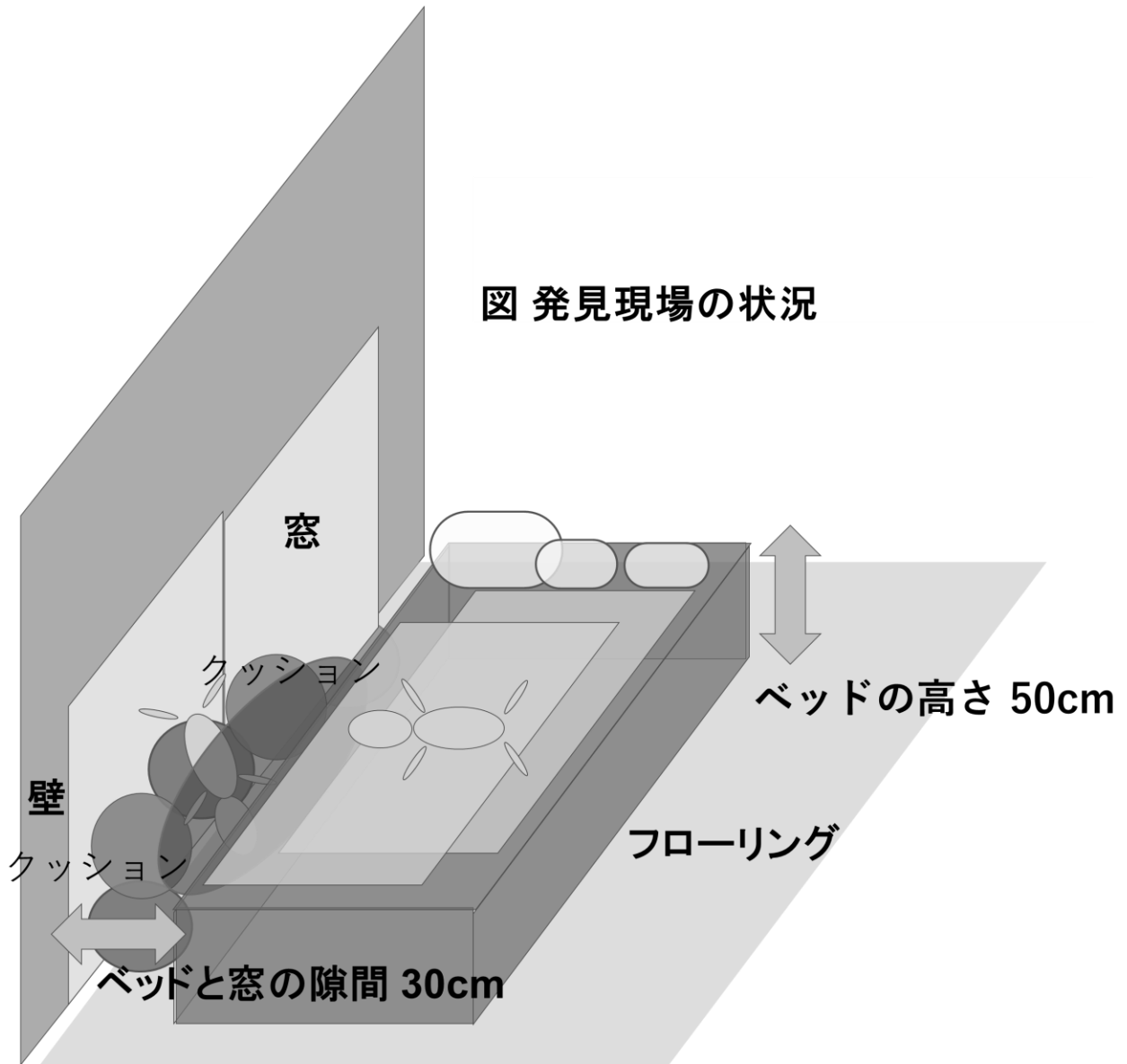


Injury Alert (傷害速報)類似事例

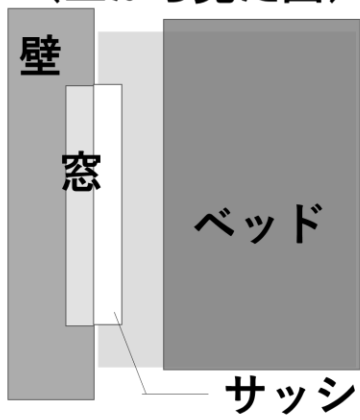
ベッドから狭いスペースへの転落で発生した窒息
(No. 70 ベッドガードとベッドとのすき間で発生した窒息の類似事例1)

事例	年齢：0歳4か月 性別：男児 体重：7.1kg 身長：68cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	ベッド、クッション	
臨床診断名	蘇生後脳症（低酸素性虚血性脳症）	
医療費	入院費用 1,998,240 円	
発生状況	発生場所	母方祖母宅の2階寝室
	周囲の人・状況	本児は2階の成人用ベッドで寝ていた。母は外出をしており、祖母66歳は1階で姉5歳、兄2歳の面倒を見ていた。
	発生年月日・時刻	2016年5月31日 午後4時50分
	発生時の詳しい様子と経緯	両親は別居中で本児、母（35歳）、姉、兄は母方祖母宅で生活していた。母は本児を2階にある成人用ベッドに寝かせ、祖母に見守りを頼み仕事に出かけた。1階で姉、兄の面倒もみていた祖母が、1時間後に、児がベッドと壁、窓の間に転落しているのを発見した。発見時、児はぬいぐるみ、クッションのなかに上半身が埋もれ、下半身は出ている状態で、呼吸が停止していた。ベッド周囲の状況を図に示す。ベッドは高さ50cmで、ベッドから30cm離れた窓にはサッシがあり、その間を転落防止のため縫いぐるみやクッションで覆っていた。普段からベビーベッドは使用しておらず、また児のベッドからの転落を防ぐ措置は何もされていなかった。
治療経過と予後	祖母により救急要請がされた。救急隊到着時、心肺停止状態であることが確認された。ドクターカーの出動も要請された。医師が救急車内で気管挿管、静脈路を確保し、アドレナリンが3回投与され、近隣医療施設に搬送された。医療施設搬入直後に自己心拍が再開した。 搬入時は収縮期血圧60mmHg、心拍数160/分、体温34.1℃、グラスゴー昏睡尺度はE1VTM1であった。 自発呼吸なし。全身チアノーゼあり。神経学的所見：瞳孔5mm/5mm、対光反射なし。明らかな外傷痕を認めなかった。低体温療法を行い、復温したが、当初から脳波は平坦であり、復温後も脳波の変化はなかった。入院8日目から無尿となり、入院18日目に死亡した。	

図 発見現場の状況



(上から見た図)



(横から見た図)

